

2022年度 事業報告書
(2022年4月1日～2023年3月31日)

法人の名称 特定非営利活動法人 なないろ

1、事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

①親子のための育児支援施設の運営に関する事業

ア 保育施設の運営事業

- ・内容 保育施設の運営
- ・日時 通年
- ・場所 神奈川県相模原市南区当麻 862 番地 13 なないろキッズルーム
- ・従業員数 常勤 4 人（児童クラブ事業と兼務）
非常勤 5 人（内 3 人は児童クラブ事業と兼務）
- ・対象者 保育を必要とする乳幼児 27 人
- ・支出額 15,696,082 円（前年度 13,286,232 円）

イ 児童クラブ施設の運営事業

- ・内容 児童クラブの運営
- ・日時 通年
- ・場所 神奈川県相模原市南区当麻 862 番地 13 なないろキッズルーム
- ・従業員数 常勤 4 人（保育施設事業と兼務）
非常勤 6 人（内 3 人は保育施設事業と兼務）
補助スタッフ 1 人
- ・対象者 児童クラブを必要とする小学生 43 人
- ・支出額 14,573,113 円（前年度 13,006,599 円）

②その他この法人の目的を達成するために必要な事業

今年度は実施せず

2、事業の成果

*今年度もコロナ禍で保護者との関りが制限され、保護者が悩みや不安を相談できる場所としての役割が十分に果たせなかったように感じる。子どもの情緒安定のためには、保護者の気持ちに寄り添うことが大切だと痛感した。しかし、利用児に対しては、制限がある中でも日々の生活を工夫し、楽しく安全に過ごすことができる場所であれたように感じる。

*コロナやインフルエンザが流行し、スタッフも数名長期間休むことを強いられたが、利用者の協力やスタッフ間の助け合いで、休園せず乗り切ることが出来たのは評価に値するのではないか。

*コロナ感染防止のため、今年度も消毒業務等でのスタッフ追加。消毒用品や感染対策備品の購入等での支出が増加したが、多少なりとも行政からの補助があり、マイナスは最小限に抑えられた。最低賃金も年々上昇し、人件費が8割を占める当法人では、行政からの補助金はなくてはならない。

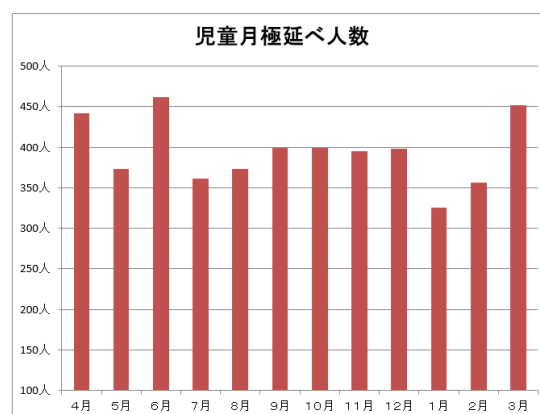
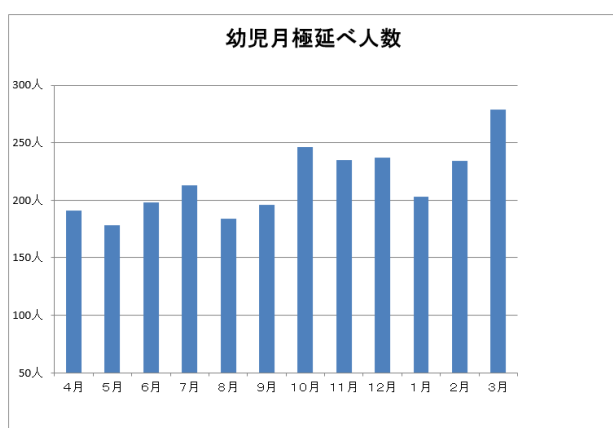
3, 次年度の目標

*子ども達に染みついているコロナ禍の生活習慣から、当たり前だった日常を徐々に取り戻し、次年度はなないろの良さである幼児と学童の交流等を増やしていきたい。

*子どもたちだけでなく、保護者にとっても実家のように「ただいま」と帰って来て、ホッとできる場所であり続けたい。また、困っていることを一緒に考えてあげられる存在でありたい。

4, 利用者推移

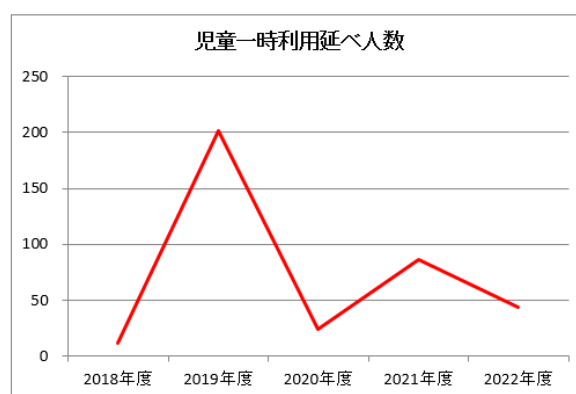
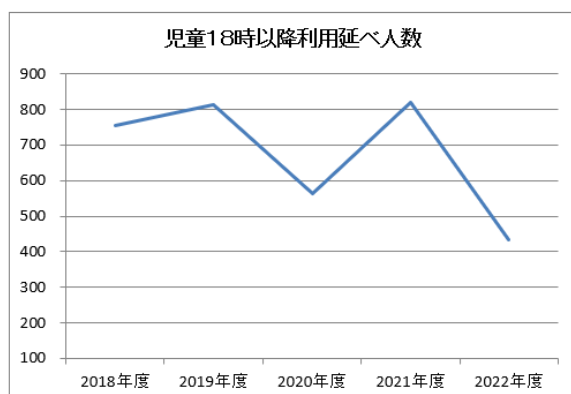
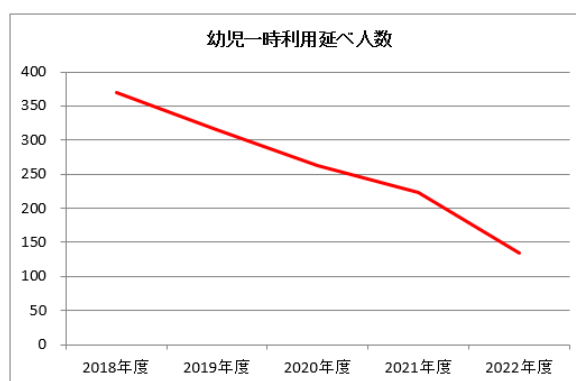
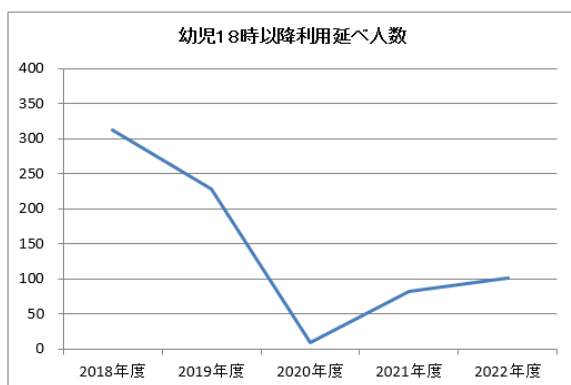
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児月極人数	12	12	12	13	12	13	15	14	14	14	14	14	
幼児月極延べ人数	191	178	198	213	184	196	246	235	237	203	234	279	2594
幼児一時延べ人数	11	14	15	15	12	15	7	11	10	8	4	13	135
幼児18時以降の延長利用延べ人数	8	6	14	7	4	9	7	5	19	8	7	8	102
幼児19時以降の延長利用延べ人数	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	3	21
児童月極人数	36	37	35	34	34	35	35	35	35	36	36	35	
児童月極延べ人数	442	373	462	361	373	399	399	395	398	326	356	452	4736
児童一時延べ人数	4	3	7	7	5	1	0	0	0	2	4	11	44
児童18時以降の延長利用延べ人数	54	28	48	31	18	35	40	31	46	35	32	37	435
児童19時以降の延長利用延べ人数	3	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	7



*月極利用数はここ数年安定してきている。長期休みのみの月極利用の問い合わせが多いが、定員もあり、なかなか要望には応えることができない。月極利用者が多いので、一時の枠を空けておくことも必要なのだろうか。また、長期休み中に昼食のみを提供するなどの他の利用の仕方もある検討したほうが良いのだろうか。

過去5年間の利用者推移

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
幼児18時以降利用延べ人数	313	228	9	82	102
幼児一時利用延べ人数	370	315	263	223	135
児童18時以降利用延べ人数	756	812	565	820	435
児童一時利用延べ人数	12	202	24	86	44



＊18時以降の利用は幼児・児童共に減少傾向にある。子どものためには保護者が早くお迎えに来てくれることは良い事であるが、低学年でも夜遅くまで親の帰りを一人で待っている子も少なくないと聞く。延長保育が19時で終了してしまう公立の保育園や児童クラブとは違い、何時までも利用ができる事をもっと周知していきたい。だが、利用者にとっては高額の時間外保育料がネック。

時間外料金を下げるために、人数の少ない時間外等の幼児・児童合同保育を実現し、人件費を減らしていきたい。ただ、現在は行政の管轄の違いから認められていないため、今後も行政との話し合いを続けていきたい。（現在は幼児1名・学童1名に対し4人のスタッフ配置が必要）

＊一時利用の延べ人数は減ってきているが、幼児は口コミや貼り紙を見て来所してくださる方が増えてきた。また、継続利用してくれることは喜ばしい。児童はここ数年月極の空き待ちでの一時利用が多い。

5, 活動報告

赤 幼児 青 児童 緑 合同



11日 避難訓練(火災)

月齢の高い子も言葉では理解しづらいため、スタッフがより一層動かなくてはならない。子どもたちには、有事の時に「集まる」ことを定着させることが大事。避難訓練は一つ一つ流れを確認しながら、早さを重視せず行う。



11日 避難訓練(火災)

事前に話をしたため、集まるのは早かったが、スタッフの指示はなかなか通らなかった。何よりもスタッフの話をよく聞いて行動することが大事だと伝えた。スタッフの役割分担がうまくできていなかったため、窓を閉めることや避難用リュックを持つなど基本的なことを忘れてしまった。今後反省点を踏まえてしっかりと訓練していきたい。

18日 新入児歓迎会

なないろでの約束事の説明→1年生の自己紹介→ゲームを交えた在園児の自己紹介
ゲームの時間が長くなってしまったので、高学年はダラダラしてしまったが、声を当てるゲームでは、声を聞こうと集中し、静かになる時間も良かった。また、1年生がとても楽しんでいて笑顔がたくさん見られた。



新入・進級プレゼント

今年度は虹色の綿テープにぶたを付けたストラップ。
虹色で作ったストラップは毎年好評



こいのぼり製作

(室内用) ジッパー付の袋にお花紙を丸めたものを入れ、目を貼ってこいのぼりに見立てた。
初めての製作だったので、年齢の低い子には難しいようだった。



(屋外用) 履き古したズボンに手形や指スタンプをした。絵の具を嫌がることなく楽しんでいる子が多かった。ズボンなので重かったが、個性のあるこいのぼりになって良かった。



こいのぼり製作

やり始めたら楽しかったようで、意欲的に取り組む子が多かった。

手で塗る子はおらず、筆でやりたがる子ばかりだった。絵の具の使い方は雑な感じがあり、物を大切にするという使い方を伝えていかなければと思った。保護者にも評判が良かった。





9日 製作(クローバーとてんとう虫)

スポンジスタンプとシール貼りで作成。

2歳児はスムーズだったが、小さい子はスポンジを掴むのが難しそうだった。



10日 健康診断

今年度初めての乳幼児健診。怖がる子もほとんどおらず、落ち着いて健診を受けることができていた。



16日 製作(はらぺこあおむし)

導入ではらぺこあおむしのCDを流しながら絵本を読む。

水風船を掴んで、目印の点の上にスタンプしたが、目印の上に押すのは難しいようだった。

ちょうちょうはテカルコマニーの技法で作成



17日 避難訓練(火災)

絵本の読み聞かせ中に行ったので、まとまったまま落ち着いていた。避難訓練は子どもたちだけではなく、スタッフの動きや声掛けが大切だと感じた。



17日 防犯訓練

「合言葉を知る」が目的。合言葉の意味を話し、不審者役を立てずに、安全な場所をみんなで探してみた。上級生が下級生を連れて、自分たちで考えて動けるように訓練していくことが今後の課題。今年度初めての防犯訓練だったので、ふざける子もなく、「不審者が複数いたらどうするか」「この場所から来たらどうするか」などの質問も出た。「不審者」を理解できる子が少なかったので、スタッフの判断が重要だと感じた。

18日 避難訓練(火災)

外階段から母屋へ避難。後列にいた高学年がお喋りしたり、カメラにピースをしたり、緊張感に欠けている気がした。訓練の大切さを考えて行動して欲しいと伝えた。



23日 防犯訓練

話をしても理解できないので、スタッフの動きや声掛けが重要。行動を制止されると泣いてしまうこともあるので、子どもをいかに静かに誘導するかを考えていかなければならない。



8日 避難訓練(地震)

前回の反省を踏まえ、窓を開ける、持ち出し用品の準備等、スタッフで分担して行うことができた。



8日 避難訓練(地震)

「地震だよ！」の合図で、本棚や窓の近くから離れ、安全な部屋の中心で頭を保護するだんごむしのポーズをするよう声掛けした。基本行動なので、子どもたちは素早く対応していた。



製作(七夕)

台紙の目印を付けた所に糊を付け、星を付けた。
2歳児は簡単に行えた。



製作(七夕壁面)

絵の具と筆に親しみを持ってもらうために、園庭で思い切り塗りたくりを行う。子どもたちは興味津々で直ぐに遊び始める。大きな紙を壁に貼って行うことで、全身を使って筆を動かし、大胆に出来たと思う。それを使い、天の川を作り天井に飾った。子どもたちは寝転んでよく見ていた。来年度も作りたい。



製作(七夕)

転がし絵で短冊を作成。願いごとをサラサラ書く子、じっくり考えて書く子と、個性が見えた。

園庭に短冊を飾ると、保護者は子ども達の願い事をよく読んでいた。コロナ終息などの願い事が多かった。





七夕飾り



製作(ひまわり)

マスキングテープを貼り格子状にする。
その上から絵の具を塗り、ひまわりの中心部分を作った。
筆を使って塗るのは、少し難しいようだった。



14日 避難訓練(火災・通報訓練)

かけ声でスタッフの所に集まるのは、戸惑いもなく直ぐに集まることができ、慌てずに避難もできた。避難してから消防署に通報訓練をした。スピーカーフォンにして、子ども達にも聞こえるようにした。

実際の通報は緊張するので、年1回は通報訓練も行いたい。



14日 避難訓練(火災)

子どもたちに知らせてから始めた。みんな落ち着いて行動でき、移動する際は高学年が低学年に声を掛け、真剣なムードを作ってくれた。

2学期からは抜き打ちで訓練してもよいかも。



29日 塗りたくり

幼児：水遊びをしながらの塗りたくり。色を楽しんでいた。筆を楽しむ子、手で塗る子、筆でゴシゴシ擦る子と様々だった。絵の具や筆に親しむことができた。

児童：濡れたり汚れたりを嫌う男子が多く、無理強いはいしなかったが、2、3日前から大きな紙にクレヨンで絵を描き、はじき絵が出来るようにしていたので、塗りたくりのイメージがしやすかった。全身が絵の具まみれになる子はいなかったが、最初は遠慮がちだった子、やりたくないと言っていた子も、だんだん塗ることに夢中になっていた。



製作(うちわ)

おもちゃの車のタイヤに絵の具を付け転がした。子どもには難しく、手を添えての製作になったが、車を使ったことで興味を示している子は多かった。例年、裏面には手形と筆で書いた名前を入れる。保護者にとっても好評だ。



製作(うちわ)

マスキングテープの剥がし絵。見本で作った物よりも、子どもたちはクリエイティブに自分で考えて作り、楽しんで取り組んでいる子が多かった。思った以上に子どもの発想は素晴らしかった。



プールあそび

水が苦手な子もいるが、徐々に慣れていき、「水着に着替えよう」と声を掛けると、みんな笑顔になった。子どもたちがプール遊びに期待している様子がうかがえる。



プールあそび

水着に着替えることに躊躇していた子も、いざ水あそびを始めると夢中になり、笑顔で水を掛け合って楽しんでいた。



3日 メントスコーラ

毎年恒例のメントスコーラ。家ではなかなかできないので、子どもたちに人気のイベント。6年生にペットボトルを支えてもらい、今年も高く吹き上がった。終わった後のコーラやメントスを食べたいという子もいて、そこでも盛り上がった。



ななりんピック

学童の夏恒例の「ななりんピック」。コロナ禍で様々な行事が制限される中、園内で楽しめるイベントとして始めた。5日間にわたり、頭や身体を使ったゲームで競い合う。賞品のトロフィーは子どもたちや保護者にも好評で、ゲットするために熱い戦いを繰り広げていた。



18日(木) 1日目

個人戦(ビーズひも通し)

- ・カップに入った18個の様々なビーズをテグスに通し、全部通し終わった方の勝ち。
- ・1年生も頑張りを見せ、学年問わず楽しめた。



団体戦(座布団ボール運び)

- ・座布団にカラーボールを乗せ全てのボールをゴール地点まで運ぶタイムレース。
- ・他のチームを見ながらゲームに精を出す姿が見られた。



19日(金) 2日目

個人戦(豆つかみ)

- ・大豆を容器から容器へ1分間に何個移動できるか競争する。
- ・低学年も思いのほか掴めていた。
- ・箸を正しく持とうという意識につながれば良いと思う。



団体戦(豆つかみリレー)

- ・一人5粒の大豆を移動したら次の人に代わる。5人1チームで競う。
- ・思ったよりチームの差が付いてしまったが、子どもたちは自分のチームを応援していた。



22日(月) 3日目

個人戦(あっちむいてホイ)

- ・程よい緊張感の中で、とても集中していた。
- ・「あっち向いてホイ」の掛け声が勢いのある方が優位だったように感じる。気合の差か？



団体戦(旗揚げ)

- ・同じチームの子が戦っているのを応援する子・研究する子・興味なさそうな子と様々だった。
- ・判定が難しいところがあった。難しい言い方をしたので低学年には理解しづらいようだった。
- ・3日目と言うこともあり、賞品を知った子ども達のやる気が凄く、聞こうとする集中力は驚くほどだった。



23日(火) 4日目

個人戦(億万長者ゲーム)

- ・3枚のおもちゃの紙幣を持ち、ジャンケンして最後まで紙幣の残った人が勝ち。
- ・今まで勝てなかった子が勝ち残り、1回1回の勝負で一喜一憂していた。



団体戦(ピンポン玉送り)

- ・トイレットペーパーの芯を横半分に切った上でピンポン玉を転がし、2分間で何個かごに入れられるかを競う。
- ・隣の子にそっと送る子や、慌ててしまう子、声を出して指示しリーダーシップをとる子など、個性が出ていた。



24日(水) 5日目

個人戦(カウンター早押しバトル)

- ・カウンターを制限時間内で何回押せたかを競う。
- ・地味な戦いになると思ったが、子どもたちは白熱していた。
- ・負けてしまった子も、優勝した子のことを自分の事のように喜んでいました。



団体戦(ひっくり返しゲーム)

- ・赤と青のカードを床にばらまき、制限時間内に自分のチームの色にひっくり返す。
- ・馴染みのあるゲームで説明もいらず盛り上がった。
- ・6年生をチームリーダーにしたことでやる気が出ていた。



19日 避難訓練(火災)

2階の部屋(学童の部屋)から火災を発見し、1階に伝えて避難するという想定だったが、伝達を忘れてしまった。訓練でも慌てて忘れてしまうことがあると痛感。スタッフ間の声の掛け合いや確認が重要だと改めて感じた。



26日 夕涼み会

小学生が作った「ワニワニパニック」「輪投げ」「射的」「魚釣り」や、保護者の出店「雑貨&ワークショップ」「ネイル」「植物」 その他ヨーヨー釣りやスーパーボールすくいなどで、夏祭りを楽しんだ。



スーパーボールすくい



魚つり



射的



輪投げ



缶タワー



ワニワニパニック



感想・反省

- ・夏祭りの中止が多いので、保護者も子ども達と一緒に楽しんでいる姿が嬉しかった。
- ・奥の方で行っているゲームが何をやっているのか分からなかったので、入口に会場図があればよかった。
- ・保護者が迎えに来てからの参加にすることや、残っている子の保育スタッフの配置等を考えると、土曜日の開催も検討。
- ・スタッフの配置が曖昧になっていたなので、きちんと決めておけばよかった。



12日 避難訓練(地震)

導入として「ダンゴ虫」の絵本を見て、頭を守るダンゴ虫のポーズをする。「慌てないで机の下に入るよ！頭を隠してね！」と声を掛けると、2歳児はスムーズに机の下に入り、静かにしていた。

12日 避難訓練(地震)

遊び中に急に訓練を始めたが、スタッフの指示で子ども達も素早く集まることが出来た。もう何度もやってると言う子もいたが、日頃から訓練することが大事なことを伝えた。慣れも出てきているが、身に付いていることも多いと感じた。



製作(敬老の日)

巾着袋にオクラ・ピーマン・ナス・ゴーヤの野菜スタンプを押した。園庭で育てた野菜も使用。初めに実際の野菜を見せ、目の前で切って断面などを観察する。皆興味津々で見っていた。スタンプは持ちにくいものもあったが、楽しく行えた。



製作(敬老の日)

パステルを使用して、おじいちゃんやおばあちゃんに日頃の感謝を込めメッセージカードを作った。スラスラとメッセージを書ける子、「おじいちゃん怖いから・・・」と悩む子と様々だった。何度かパステルは経験しているので、自分たちなりに考えて、見本通りではないものができた。



製作(さつま芋)

事前に園庭の砂場にさつま芋を埋めて、さつま芋堀の遊びをした。

あらかじめ、さつま芋の形の枠を描いておくと、はみ出さず丁寧に塗る子、大胆に紙一杯に塗る子と個性が出ていた。



製作(ハリネズミ)

ハサミに興味を持つ子が多くなってきたので、ハリの部分の画用紙をハサミで切って貼り付けた。カラフルなハリネズミたちが出来上がった。



11日 避難訓練(火災)

避難訓練にも慣れて来て、二人一組で手をつないで避難することができた。訓練後の園庭遊び中に「ピーポー来ないのかな?」「火事だね」などと、子ども同士で話をしていて、子どもなりに考えているのだと感じた。

11日 避難訓練(火災)

避難の際、慌てず一列で手すりにしっかり掴まり階段を下りていた。

毎月訓練を行っているので、成果が出てきたように感じる。



12日 防犯訓練

外遊び中に抜き打ちで実施。外遊び中の想定は初めてだったので、不審者が来た時の合言葉を聞いても、すぐに動ける子が少なかった。合言葉をもっと浸透させていかなければならないと感じた。



製作(蜘蛛)

ハロウィンを意識して、蜘蛛の製作を行う。紙皿に穴をあけ、毛糸を通し蜘蛛の巣を表現。モールで作ったカラフルな蜘蛛を付けた。



31日 ハロウィン

朝スタッフが準備をしていると「何やってるの?」と普段と違う雰囲気になんかソワソワしていた。事前をお願いしていた近隣の店舗や会社に伺ったが、いつもと違う雰囲気を察している子どももいて緊張気味だった。だが、お菓子を貰うと、みんなとても喜んでいて。帰園してからの、中に何か(ピカチュウ)がいるお菓子の家に入るのは、そこまで怖がらず皆楽しく行っていた。



反省 今年年齢的に声が出せない子が多かったため、動きのあるダンスにした。恥ずかしくて踊れない子もいたが、「可愛い」と言ってもらえたのでよかった。「お菓子くれなきゃ いたずらしちゃうぞ」の合言葉は、練習した甲斐があり、皆上手に言っていた。

31日 ハロウィン

今年度は久々に園外を回ることが出来た。すれ違う方々に「ハッピーハロウィン！」と声を掛けると、意外と反応が良く、手を振ってくれる方もいて、子ども達も喜んでいて、また、予定していた施設のほかに、保護者が待ち伏せしてお菓子を配ってくれるサプライズもあった。はじめは恥ずかしいと言っていた子も、だんだんと乗ってきて楽しんでいった。



反省 公道での声出しを OK にし、地域の方々と交流することは楽しめたが、歩き方のマナーや身の安全を守る意識が低いように感じた。



1日 製作 (レジンで作るキーホルダー)

講師を招いての製作。講師に積極的に質問しながら作る子が多かった。個性が出ている素敵な作品ができた。お迎えに来た保護者にも嬉しそうに報告していた。



製作 (きのこ)

製作する前に「きのこ」のダンスを踊りイメージを膨らませる。印を書いておき、その上にシールを貼った。



8日 健康診断



9日 避難訓練(火災)

少し落ち着いたトーンで声掛けをすると、子どもたちも落ち着いて行動することができた。
靴下のまま園庭に出て避難したが、嫌がる子はいなかった。



9日 避難訓練(火災)

1階からの「北側から火事です」の知らせでスタート。
それを子ども達もよく聞いていて、直ぐにスタッフの所に集まってきた。
直ぐに集まれるのも、普段から訓練を行っている成果だと子どもたちに話した。

製作(どんぐり)

実際のどんぐりを見て模様や色を観察する。
ハサミを使ったが、1回切るとハサミを開くのに苦勞していたが、可愛いどんぐりが出来上がった。



製作(勤労感謝の日)

紙筒を使ってペン立てやメガネ立てを作成。アイデアいっぱい作品が続々と出来上がった。





2日 避難訓練(地震)・引き取り訓練

保護者の引き取り訓練の流ればかりが気になってしまい、普段の訓練で行っているようなことができなかつた。また、子どもたちを園庭に出す前に、外の安全確認をするべきだつた。スタッフ全員が乳児をおんぶしていたので、一人はフリーで動けるスタッフが必要だつた。避難用具倉庫にヘルメットが必要。



2日 避難訓練(地震)・引き取り訓練

部屋の中央に集まった後、タオルで作った防災頭巾を被り園庭へ避難。おしゃべりしている子もいたので、自分だけではなく他の人も危険な目に遭うことを伝える。その後消防士(保護者)に、映像を観ながら地震についての話を伺い、卵のカラを割れたガラスに見立て、その上を歩く体験もした。子ども達は真剣に観たり取り組んでいた。保護者には事前に引き取り訓練の事は伝えたが、らくらく連絡を見ていなかったり、車で来る保護者も多く、危機感が感じられなかつた。保護者の意識改革が今後の課題。



23日 クリスマス会

サンタとお化けのペープサートを見せながら会を進める。本物のサンタが登場すると怖がる子もいたが、プレゼントをもらおうと笑顔になっていた。



23日 クリスマス会

導入として「おおきなかぶ」の絵本を読み、「うんとこしょ、どっこいしょ！」の掛け声でサンタとトナカイが登場。

プレゼントをもらい、一緒に写真を撮った後は、プレゼント決めのあみだくじや億万長者ゲーム、マジックショーを楽しんだ。



クリスマスイルミネーション



27日 餅つき

幼児は皆やる気満々で、学童の応援を受けながら子ども用の杵で餅をつく。身体の大きな子は一人でつくことが出来た。

小学生はやる前まではイヤだと言っていたが、みな楽しんで行えた。



反省 幼児と学童の餅つき開始時間は検討が必要。

コロナで合同の行事が少なかったので、一緒に餅つきができたのはよかった。終了後も合同で遊んでお互い楽しめた。



5日 初詣

学童と手をつないで無量光寺まで歩く。しっかりと歩くことができた。

学童も幼児と一緒に皆嬉しそうだった。積極的に手伝いをしてくれる子が多い。



製作(絵馬)

年齢に合わせ工程を少し変える。
どの子も集中して取り組むことが出来た。



13日 避難訓練(火災)

子ども達は静かに話を聞き、とても落ち着いて取り組んでいた。避難する際に靴を履くか悩み結論が出ずにいるので、スタッフ間でしっかり話し合っていきたい。

13日 避難訓練(火災)

皆落ち着いて行動することが出来た。階段を降りる際も静かに避難でき、日頃の訓練の成果を感じた。
ただ、ハンカチを持っていない子が数名いたので、煙から身を守るためにハンカチが有効だと話をした。



19日 健康診断



3日 節分

自宅でも豆まきの練習をした子が多く、豆まきに期待して登園する。段ボールに描いた鬼に豆を投げる時はみんなニコニコだったが、段ボールの後ろから鬼が現れると、全く平気な子、大泣きする子、固まってしまう子など反応は様々だった。毎年の事だが、鬼の引き際が難しい。



3日 節分

恵方巻を食べる意味を知り、おやつのお恵方巻を頬張った。豆まきでは年男・年女の5年生が福を分けた。



6日 避難訓練(火災・地震)

事前に話をしてから実施。だんご虫のポーズは、ほとんどの子が上手にできたが、移動しようとするすると泣き出す子もいた。



7日 避難訓練(火災・地震)

室内遊び中だったが、地震発生の声掛けで直ぐに集まることが出来た。震度5以上の地震想定だったので、手作りの防災頭巾を被り屋外へ避難。防災頭巾は被りやすいように改良したので素早く装着できた。



製作 (おひなさま)

コーヒーフィルターににじみ絵を描き、お内裏様とお雛様の着物を作った。
個性豊かなお雛様が出来上がった。



7日 避難訓練 (火災)

靴を履かずに移動したので、スムーズに避難できた。乳児はおんぶするよりも、避難車に乗せた方が時間もかからず安全だと感じた。



7日 防犯訓練

子ども達を集めるのに時間が掛かってしまった。大きな子が小さな子の手を引いてくれたが、いつもと違う雰囲気泣き出してしまいう子もいた。

7日 避難訓練 (火災)

抜き打ちで行う。

2階から非常階段で避難。靴下のままで足が痛くてもダラダラせずに避難できた。

「またー」と言う子もいたので、日頃の訓練の大切さを伝える。



8日 防犯訓練

外遊び中に不審者が来た想定。合言葉を言うと自然に部屋の中に避難した。部屋の中にいたスタッフや子ども達にも伝え、スムーズに身を隠せる場所に避難できた。

14日 健康診断

23日 お別れ遠足

今年卒業する6年生同士で思い出作りのためにゲームセンター、焼き肉食べ放題に出かけた。保護者が送迎の協力をしてくれたので実現できた。



30日 園外保育(親水公園)

卒園児と在園児の思い出作りとして出掛けた。桜が満開の中、思いっきり走り回って遊んでいた。



31日 旅立ちの会

今年は4年ぶりに在園児出席・幼児、学童合同の旅立ちの会ができた。

数年ぶりにみんなで送り出すことができ、感慨深かった。

旅立って行く先輩に感謝の気持ちを持ったり、自分たちが旅立つ事への期待も持てたのではないかな。



6、その他



今年度も、園庭のプランターで野菜作りをし、子どもたちも水をあげ、収穫を体験し、給食でおいしく食べた。野菜嫌いな子も、採りたてをパクパク食べていた。

収穫できた野菜：ナス・きゅうり・ピーマン・ミニトマト

反省：土づくりをしっかりとの方が良かった。ゴーヤは観賞用のゴーヤだったので収穫できず……。



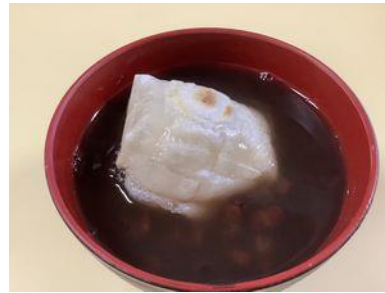
行事食

保護者世代でも知らないような行事食もあり、子どもたちに伝統的な行事食を知ってもらいたいという思いから、行事食の意味を伝え、給食やおやつで提供している。

七草がゆ



鏡開き「おしろこ」



小正月「小豆がゆ」



節分「恵方巻」



お彼岸「おはぎ」



ホワイトデー



この他に

土用の丑の日に「ひつまぶし」 十五夜「お月見団子」 冬至「いとこ煮」
ひな祭り「うしお汁」 初午「いなり寿司」 等を提供

寄付



フードコミュニティ様:野菜・離乳食・お菓子・非常食等

明治安田生命様:文房具・お菓子・雑貨等

保護者:トイレトペーパー・ティッシュ・ビニール袋・洗剤・おもちゃ・洋服等



♪ありがとうございました♪

* 2020～2022 年度<236,986 円>の寄付を頂きましたので、電子ピアノを購入することができます。次の目標は園庭遊具です。

* 今年度、子ども服や育児用品のリサイクルイベントを行った。好評だったので、次年度も継続していきたい。公民館の利用や他の団体との合同開催も検討したい。



* 在園児、卒園児共に、おもちゃや本、お菓子などを寄付して下さる家庭が増えてきた。子どもの成長と共に手放すことになる物が出た時に、「なないろに持って行こう」と思ってくれることはありがたい。保護者の子育ての思い出の中に、なないろがずっと残ってくれるような存在であることも嬉しい。

職場体験



<職場体験の受入：相模原市内の中学校4校>

初めは緊張していて うまく子どもと接することが出来なかった中学生も、徐々に自ら子どもの輪の中に入っていき、笑顔で子どもたちと接していた。子どもたちもお兄さんお姉さんにたくさん遊んでもらい、とても喜んでいた。この職場体験の経験を通して、一人でも保育士になろうと思ってくれる子がでたら嬉しい。

ただ、期間が1～3日と短いため、保育士の仕事の大変さは、なかなか感じてもらえなかったのではないか。



★SNS★

「今日のなないろ」 <http://k2love2.blog53.fc2.com/>

「フェイスブック」 <https://www.facebook.com/nanairo.kids.room/>

「インスタグラム」 https://www.instagram.com/nanairo_kids/

「今日の給食」 <http://7716lunch.blog.fc2.com/>



スタッフの2022年度振り返り



2023年度の目標

- * 保護者会等で親とのコミュニケーションを取ることの必要性を実感。
保護者の懐に入るといふより、こちらの懐に入りやすい環境を作っていくことが大切なのかと思う。
- * なないろが目指すところ、常勤と非常勤の仕事配分、社会人としての常識、保護者対応等、スタッフ間での共通認識は不可欠。まだまだコミュニケーション不足を感じる。
- * スタッフの急な休みや、急な退職等にも対応できるように、業務の共有 & 引継ぎの重要性を感じる。
- * 年々、低年齢の園児が増えてきているので、スムーズに保育を進めていくことに苦勞する。そのため、配置のスタッフの役割を決めるなど、工夫しながら保育を行ってきた。試行錯誤しながらよりよい保育を目指そうというスタッフの努力が見られた。
- * スタッフが自発的に保育の質を高めようと、資格を取得したり学んだりしていた。お互いに刺激し合い高め合っていけたらと思う。
- * 子育て経験、保育園勤務経験もなかったが、他のスタッフからの助けもあり、流れがだいぶ分かってきた。保育士資格が取得できたら、リーダーの立場も担うようになるので、今から気が引き締まる思いだ。
- * コロナ禍になってからなないろに入所した子が半分になった。様々な行動制限があり、保護者とのコミュニケーションも取りにくくなってしまっていたので、今後はもっと気軽に話ができるような雰囲気づくりをしていきたい。
- * なないろの良さである「のびのびとした環境」を気に入り、入所してくださる方が多い。また、利用者の紹介での入所も多い。保護者が安心して預けられる場所、子どもが通いたいと思える場所を提供していきたい。
- * 園の様子だけではなく、保護者からの意見や要望など、気軽に話ができる場を設けていきたい。
- * なないろの保育目標にもある「自分で考えて行動できる子」それはスタッフにも言える事であり、指示を待っているのではなく、自分で考えて動く。
- * 脱コロナ禍を目標に、保護者も交えた行事を増やしていきたい。
- * 今年は研修にも積極的に参加し、資格取得を目指していく。
- * 低年齢の子が多いので、子どもたちが食べやすく、目でも楽しめるような献立作りをしていきたい。